

## 1 現状

平成28年度総合教育会議の協議結果を踏まえ、教育委員会と各局とが連携し、次のとおり取り組みを進めている。

### 1：子どもの貧困対策のための学校のプラットフォーム化

- 【取り組み①】隠れた貧困の掘りおこしのためのスクールソーシャルワーカー（SSWr）の拡充
  - ・SSWrの配置や時間数の拡充 10人(H28) → 12人(H29)
- 【取り組み②】子どもの貧困に対する教職員の「気づく力」の向上
  - ・全教職員が隠れた貧困に気づく力を身につけるため、SSWrを講師とした研修の開催

### 2：教育と福祉の連携・情報共有体制の確立

- 【取り組み①】子どもの貧困関係機関等との連携推進
  - ・子どもの貧困関係3局やSSWr、要保護児童対策協議会等の連携強化

### 3：困難な状況にある子どもたちの進学の経済的課題の解消

- 【取り組み①】利用しやすい奨学金制度への見直し
  - ・育英奨学金（貸与型）と篤志奨学金（給付型）の併用可能化

### 4：子育て支援策としての子どもたちの放課後の居場所の充実

◎放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携の強化（スタッフ等の相互理解の促進、合同活動の拡充）

- 【取り組み①】放課後児童クラブの拡充
  - ・放課後児童クラブ 75カ所（H28） → 78カ所（H29）
  - ・対象者の拡大（全学年を対象 H27～）
  - ・開所時間の延長
  - ・支援員確保に向けた処遇改善
  - ・保護者負担金の軽減
- 【取り組み②】放課後子ども教室の拡充
  - ・放課後子ども教室 25カ所（H28） → 33カ所（H29）  
（放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体型の拡充）
  - ・学校と地域の連携を支える人材の養成（「こ・こ・に」の専門課程に位置付け）
  - ・放課後児童クラブと合同し行う活動の充実

## 2 課題

- (1) 子どもの貧困実態の詳細が把握できていない。
  - ⇒ 子どもの貧困関係3局（子ども未来局、保健福祉長寿局、教育委員会事務局）が連携した子どもの生活の実態調査を行う。
- (2) 就学援助制度の改善のあり方

### 「子どもの生活実態調査」について

1. 目的：静岡市における子どもの貧困の実態を的確に把握し、実効性のある施策を推進するため、子ども未来局、保健福祉長寿局及び教育局の三局が連携して調査を行い、その結果を踏まえ計画の見直しを行う。

#### 2. 調査内容

##### (1) アンケート調査

##### ① 対象

5歳、10歳（小5）、13歳（中2）、16歳（高2相当）、制度利用世帯 計8,600世帯程度  
 「5歳」「高2相当」は無作為抽出、「5歳」は保護者のみ、「小5」は各学校1組  
 「中2」は各学校1組。ただし、全生徒数が500人以上の学校は2組まで。  
 「制度利用世帯」は、「生活保護」「就学援助」「児童扶養手当」の各支給世帯から抽出。

##### ② 内容（主な項目）

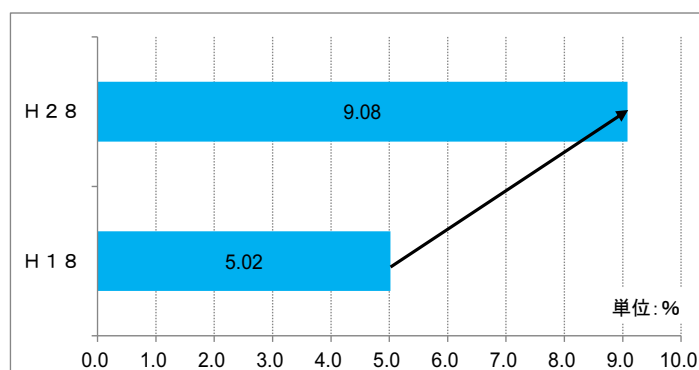
・世帯・家計、普段の生活、学校・勉強・進路、相談相手 等々 保護者60問程度、子ども40問程度

##### (2) ヒアリング調査

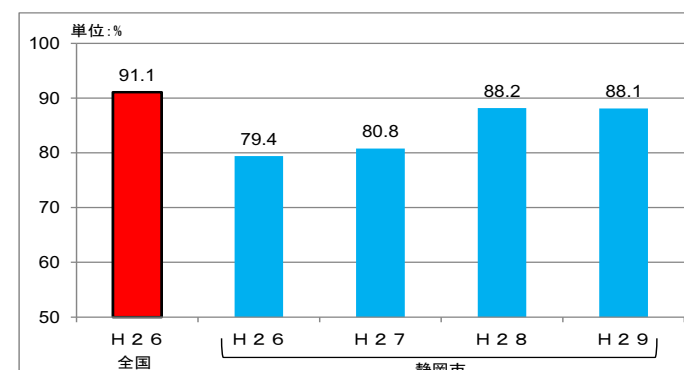
対象：子どもに関連する施設、関係者10か所程度

#### 3. 主なスケジュール（予定）

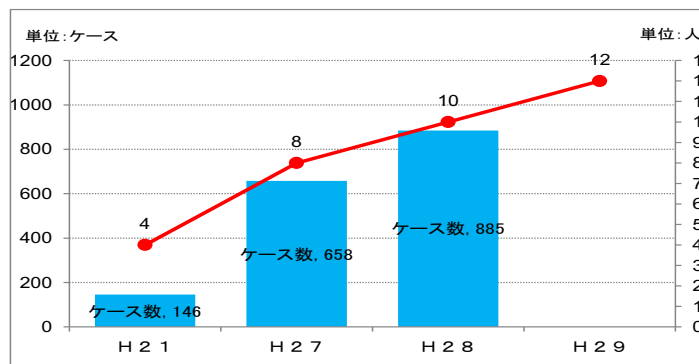
7月中下旬	調査票配付、郵送	
8～9月	集計・分析	
9月末	調査結果中間報告（速報値）	⇒ 30年度予算要求への反映
12月中下旬	貧困対策推進計画見直し骨子案	⇒ 計画搭載事業の精査（庁内会議、審議会）
2月下旬	調査結果最終報告	⇒ 貧困対策推進計画見直し



静岡市の就学援助認定率（学事課調べ）



生活保護世帯に属する子供の高等学校等進学率（福祉総務課調べ）



スクールソーシャルワーカーの配置状況（学校教育課調べ）